
紀要「山口学研究」 【第4巻】

目次

I 巻頭言

山口学研究センター長 進士 正人

II 山口学研究センターについて

III 研究論文 (2019年度採択プロジェクト)

研究プロジェクト名：文化財修復の温故知新 日本画の新潮流及び山口型・文化財保存修復研究センタープロジェクト

「山口市・興隆寺 釈迦堂文殊菩薩坐像台座復元に関する研究 - 様式編 -」

上原 一明, 馬場 良治 1

「山口市・興隆寺 釈迦堂文殊菩薩坐像台座復元に関する研究 - 分析編 -」

中野 良寿, 永嶌 真理子, 平川 和明, 森福 洋二 9

IV 研究論文 (投稿分)

「大学と地域が連携した地域学習イベントの実践：山口県防府市富海地域を対象として」

浜橋 真理, 福井 清治, 出穂 稔朗, 森重 泰信 21

「コロナ禍で低下した山口大学生の身体活動を回復する試み

-本学関連部署と連携した PBL 活動を通して-

清野 良輔, 泊 信吾, 畑田 花歩, 福島 成美, 湯浅 日苗, 中井 美奈,
上田 真寿美 30

「山口県の女性就労特性と活躍推進施策についての考察」

鍋山 祥子 41

「コロナ禍での政府支援策が山口県の観光・娯楽産業の雇用に与える効果の分析」

山本 周吾, 諏訪 竜夫, 加藤 真也 48

「2023年の梅雨前線豪雨により山口市で発生した浸水被害の特徴」

山本 晴彦, 古場 杏奈 60

「2023年の梅雨前線豪雨により美祢市で発生した浸水被害の特徴と2010年豪雨との比較解析」

山本 晴彦, 古場 杏奈 80

「2010年と2023年の梅雨前線豪雨により山陽小野田市の厚狭地区において発生した浸水被害の特徴と比較解析」

山本 晴彦, 古場 杏奈 103

V	投稿規程	124
VI	編集後記		

巻頭言

山口大学の研究者が、山口県を自らの研究フィールドとした地域学研究プロジェクト「山口学研究」紀要、第4巻を刊行することができました。これまでの紀要と同様山口地域に注目し、その自然、歴史、文化、観光、産業、教育等様々な分野における地域課題を発掘し解決を図るとともに、地域を総合的に探究することにより、新たな知見を得ると同時に地域社会の活性化に寄与することを目的とし、今回は平成28年から令和元年にかけて複数年で実施された研究プロジェクト並びに、令和4年に単年度で実施された研究プロジェクトおよび目的を同じくする投稿論文6報が掲載されています。

山口学研究では、地域の抱える課題は複合的で一つの研究分野のみで解決できるものではなく、様々な分野の知見を結集して、多面的に検討を行うこと必要であるという共通認識のもと、研究者それぞれの専門分野の垣根を越えた文理融合の視点を有し、他の研究機関や地域を巻き込みながら総合的に山口の研究を行う点が特徴のひとつです。

この号では、山口学研究プロジェクトとして山口県内で文化財指定がされていないため、修復の優先順位が低く放置されがちな文化財に光を当て、文化財復元に文系理系の研究者が地域と一体となり6年間にわたり取り組んだ興隆寺釈迦堂の文殊菩薩坐像獅子台座と岩座の復元に関する研究。単年度の研究プロジェクトとして新型コロナウイルス感染症のための経済対策が県の観光・産業雇用に与える効果分析に関する研究が取りまとめられています。そして、文理を超えた地域課題の解決と科学的探究のために、新型コロナウイルス感染症蔓延により低下した学生の身体活動を回復する活用や、山口県の女性活躍推進施策に関する考察、令和5年度梅雨前線豪雨による県中央部の被害状況の報告など、山口大学の総合知とネットワークをフル活用してこれからも山口学研究を進めていきたいと考えております。山口学研究のモットーは「楽しく夢のある研究を地域とともに！」です。今後も「山口学研究」紀要を通じて、山口県の新しい発見を発信してまいります。

山口大学山口学研究センター長
進士 正人



山口学研究センターについて

平成 27 年 12 月 9 日、山口大学創基 200 周年事業のひとつとして、「山口学研究センター」を設置しました。同センターは、山口県をフィールドとした自然・文化・歴史・産業・観光・流通・教育等に関する研究を推進するとともに、その成果を活用し、地域社会の活性化に寄与することを目的としています。

この目的に沿った研究プロジェクトを公募・選定し、選定した個々のプロジェクトに対する支援（経費、広報、学外との調整など）を行うとともに、迅速な情報発信によって研究成果を地方自治体や地域社会に還元することで、地方創生や地域活性化の取組に繋げていきます。

山口学研究センター紀要「山口学研究」投稿規程

(目的等)

第1条 山口大学における山口県の自然文化、歴史、産業、観光、流通、教育等に関する研究成果を活用し、もって地域社会の活性化に寄与することを目的として、山口学研究センター（以下「センター」という）紀要「山口学研究」（以下「紀要」という。）を発行する。

2 紀要の編集及び発行は、本規程の定めるところによる。

(投稿資格)

第2条 紀要に投稿できる者は、次のとおりとする。

- (1) 本学の常勤及び非常勤の教職員（退職者を含む）
- (2) (1)に定める者を代表者とする山口学研究プロジェクトの共同研究者
- (3) その他、紀要編集委員会（以下「委員会」という。）が認めた者

(原稿の種類)

第3条 紀要に投稿できる原稿の種類は、「山口学」に関する内容とする。「山口学」とは、山口大学が推進する、山口県に関わる文理融合の研究である。

(原稿の体裁)

第4条 原稿は原則和文とする。原稿はA4判（上下左右に各20mmの余白）にMS明朝10ポイントで横2段組（25字×50行×2段）とし、原則として、図・表・写真を含み12ページ以内とする。原稿は電子媒体で、使用するファイル形式はwordファイルとする。

(原稿の形式)

第5条 下記の(1)～(6)の形式とする

(1) 表題等について

表題及び執筆者氏名はMS明朝16ポイントの太字とし、所属をMS明朝14ポイントとする。一方、英語表記では、表題及び執筆者氏名をTimes New Roman16ポイントとし、所属をTimes New Roman14ポイントとする。

(2) 要旨

要旨は400字以内で、背景・目的・方法・結果・結論等を簡潔に記載する。

(3) 本文

和文の句読点は全角「、」「。」を用いる。

章立ては**1 2 3**…(全角太字)と太字で表記する。節は**1.1. 1.2.**…(半角太字)のように太字で表記する。

(4) 図・表・写真

図・表・写真は本文中にモノクロで挿入し、キャプションも含め版面に収まるよう

作成を行い、記載の順序に番号を付ける。線画をスキャニングする際にはモードはモノクロ 2 階調、解像度は仕上がり時の寸法で 1,200dpi 以上に設定する。また、写真をスキャニングする際には、モードはグレースケール、解像度は仕上がり時の寸法で 350dpi 以上に設定する。本文と図・表・写真の間は、一行空白を設けることが望ましい。

図・表・写真の番号及びキャプション(タイトルや説明)の位置は、図・写真の場合は図・写真の下側、表の場合は表の上側とする。

(5) 注釈

注は、1)、2) のように通し番号による上付き数字で示し、本文の後(引用・参考文献の前に)【注】の項目を建て一括して記す。

例：．．．である¹⁾。

【注】

1) 注は本文の後に一括して示す。

(6) 本文中における文献の引用方法

引用・参考文献については注釈の後、論文の末尾に【引用・参考文献】の項目を建て、日本語文献と英語文献を分けて日本語の場合は著者名五十音順、英語の場合は abc 順で一覧にする。

本文の該当箇所に、著者 1 名の場合(著者姓○○, 刊行年) 例：(田中, 2015)、著者 2 名の場合(著者姓○○・著者姓○○, 刊行年) 例：(田中・中村, 2015)、著者 3 名の場合(著者姓○○ほか, 刊行年) 例：(田中ほか, 2015) と表記する。

(7) 引用・参考文献一覧の作成様式 (日本語の場合)

=著者姓名=, XXXX (刊行年), 「=論文名=」, 『=書名=』, 発行者, pp. XX-XX (開始頁と終了頁)。(巻号頁は vol. no. pp. で統一)

論文名は「」でくくり、雑誌名を『』でくくる。書籍の場合は、引用内容を「」でくくり、書籍名を『』でくくる。

<例> 山下浩一, 1998, 「○○に伴う裂傷の頻度・部位・予防法」, 『日本○○学会誌』, ○○書店, pp. 97-600.

[URL のみを表示する場合]

上記と同様に引用先の名称と年号に続いて引用箇所のタイトルと URL を付す。

<例> 防災財団, 2018a, 『地域防災指針』 <https://www.bosai.co.jp/content/1266645>

(8) 引用・参考文献一覧の作成様式 (英語の場合)

Last Name に続いて、Middle Name と First Name を頭文字とピリオドで表示、各著者の間はカンマでつなぎ、最終著者との間は and でつなぐ。年号に続いて、文献名を“ ” で囲い、雑誌名はイタリックで表示する。巻号は、vol. 及び no. で表示

し、頁は pp. の後に最初と最後のページ数をハイフンでつなぐ。doi が分かる場合は、doi の URL を添える。

<例>Hill, V. A., Barber, E., Carter, N., and Volt, E., 2019, “Turbidity Current caused by Tsunami, 2011”, *Natural Science*, vol. 7, no. 42, pp.23-52, <https://doi.org/10.1166/s40939-018-0353-8>

[書籍全体を引用する場合]

著者名と年号（表記方は上述に準じる）の後に書籍名を“ ” で囲んで表示し、カンマのあとに出版社を表示し、頁数の後に p. を付す。

<例>Raymond, B., 2003, “Future of Robot”, Mechanic Publishing Co. Ltd., 366 p.

[書籍の一部を引用する場合]

著者名と年号（表記方は上述に準じる）の後に、引用部の名称を“ ” で囲い、*In:*（イタリック）の後に編集者名を書き、(ed.)あるいは(eds.)と書いたのち、イタリックで書籍名を表示し、カンマのあとに、引用頁数(pp. -)と出版社を示す。

<例>Abbot, V. A., Charleston, E., Porter, N., and Vail, E., 2015, “Ancient Music before J. S. Bach” *In:* Thompson, A.B. and Carry, O.N. (eds.) *Music Science*, American Publishing Co. Ltd. pp.3-66.

[URL のみを表示する場合]

著者ないし引用元の名称の後に閲覧した年号を付し、続いて URL を表示する。

<例> World Heritage Organization, 2019, “Preservation Protocol of Karst Heritage”
<http://www.worldheritage.com/663546.3.pdf>

(原稿の投稿)

(9) 引用・参考文献一覧の配置

山下浩一, 1998, 「〇〇に伴う裂傷の頻度・部位・予防法」, 『日本〇〇学会誌』, 〇〇書店, pp. 97-600.

Abbot, V. A., Charleston, E., Porter, N., and Vail, E., 2015, “Ancient Music before J. S. Bach” *In:* Thompson, A.B. and Carry, O.N. (eds.) *Music Science*, American Publishing Co. Ltd. pp.3-66.

上記のように、文献の 2 行目を全角 1 行(半角 2 行)下げる。

第 6 条 紀要に投稿しようとする者は、委員会が定める期日までに、センター事務局に対し、委員会が指定する内容に従って原稿を提出しなければならない。

(審査)

第 7 条 投稿された論文の審査は、委員会が行う。

(論文掲載の可否)

第 8 条 投稿論文の掲載可否は委員会が決定する。原稿の体裁・内容などについて、委員会により指名された査読委員による査読を経て著者に修正を求めることがある。査読委員による査読は 2 回までとする。

(校正)

第9条 投稿者が自らの責任で校正を行う。

2 校正は、原則として編集に関わる修正（誤脱字、句読点、図表の配置、軽微な表現の訂正など）のみを対象とし、大幅な修正・加筆は認めない。

（著作権等）

第10条 投稿された論文等の著作権は、センターに帰属するものとする。

2 本文の一部や図・表・写真等を他の著作物から転載したり、オリジナルを掲載したりする場合、著作権に関わる問題や法令上の手続きは、投稿者があらかじめ処理するものとする。それらについて問題が生じた場合は、その責は投稿者が負うものとする。

3 投稿者は、センターに対して、当該論文等の印刷、電子的記録媒体（CD-ROM、DVD-ROM等）への変換・複製、学内外への配布及び公開を原則として許諾するものとする。

第11条 この規程の改廃は、委員会の議を経て行う。

附 則

1 この規程は、令和元年10月1日から施行する。

附 則（令和3年2月1日変更）

1 この改正は、令和3年2月1日から施行する。

○その他紀要に関する事項

1. 原稿締切日について

原稿締切日はセンターにより採択されたプロジェクトに係るものについては支援終了の翌年度末まで、その他のものについては、投稿前に下記連絡表により投稿者が示すものとする。

2. 原稿の様式について

原稿様式（和文）を投稿者に対して電子データで提供する。

3. 図・表・写真について

紀要は、センターホームページで公開する予定もあるため、モノクロ版とカラー版両方の原稿を作成する。

4. 査読について

投稿者は査読を行う者2名を委員会に対して推薦する（下記表に2名記載してください）。

5. 謝辞について

センターにより採択されたプロジェクトに係るものについては、山口学研究センターのサポートがあったという内容を記載し、それ以外は必要に応じて自由記載とする。

以下の内容について、総務企画部地域連携課地域戦略係 (sh034@yamaguchi-u.ac.jp) まで連絡願います。

投稿者氏名	
投稿者所属	
内 容	簡潔に記載願います。
原稿提出予定日	令和 年 月 日
査読者 1	所属・氏名等
査読者 2	所属・氏名等

編集後記

山口学研究では、山口県に関係する様々な分野の研究を網羅し、文系・理系の分野融合を目指した新しい研究分野を扱っています。第4号に当たる本誌には、これまでにない数の論文が掲載されています。文化財修復に関する2編の論文(様式編：上原一明・馬場良治著,分析編：中野良寿ほか著)、2023年豪雨被害に関する論文3編(山口市・美祢市・山陽小野田市：山本晴彦・古場杏奈著)、地域学習イベントに関する論文(浜橋ほか著)、コロナ禍で低下した身体活動回復に関する論文(清野良輔ほか著)、女性就労と活躍推進施策に関する論文(鍋山祥子著)、政府支援策が雇用に与える効果(山本周吾ほか著)が収められています。いずれの論文も、山口県に関係した題材をテーマにした優れた研究成果を分かりやすく記述されています。執筆者の方々には、お忙しい中、大変優れた研究を分かりやすい原稿に仕立てていただきを心より感謝いたしております。併せて、査読・審査にご協力いただきました先生方にも、厚く御礼申し上げます。これらの論文が、山口県在住の皆様の将来の生活に役立ち、また山口県内の地域学の研究の発展に寄与するであろうことを確信しております。山口大学の先生方におかれましては、山口県に関係する研究や地域貢献に関する成果を論文・報告・資料・エッセイなどを積極的にご投稿いただきますよう、心よりお願い申し上げます。

令和6年7月31日

山口学研究センター紀要編集委員長

脇田 浩二

編集委員

前坂 祥子

山口大学山口学研究センター紀要「山口学研究」 第4巻

発行日 令和6年7月31日

発行 山口大学山口学研究センター

〒753-8511 山口県山口市吉田 1677-1

TEL 083-933-5630

編集 山口大学山口学研究センター紀要編集委員会
